

座長：牧 匠(福島県立南会津病院)

---

## 地域で役立つ！病状説明のハートとスキル

天野 雅之

南奈良総合医療センター 総合診療科 医長/教育研修センター 副センター長

---

本講演の目的は二つある。初学者の皆さんに「病状説明の型」を伝え、病状説明に対する苦手意識を減らして自信をつけていただくこと。そして指導医の皆さんに「説明戦略を言語化する方法」をお伝えし、普段の診療内容を言語化して後輩に教える際の参考にさせていただくことだ。

病状説明とは、「未来のありかたを協力して創り上げるプロセス」である。病状説明の重要性はますます高まっている。診断過程における高い不確実性下の意思決定には、相手との協働が必須である。治療過程においても、医学の発展に伴い様々な選択肢が生まれるなかで、個々の患者状況に応じた最適解を目指すには相手との対話が重要だ。

病状説明に“接する機会”は学生時代から準備されてきた。しかし、病状説明を系統的に“学ぶ機会”は十分ではないだろう。指導医の病状説明に同席した際、「どこに注目して聞けばよいか」を教わったことはあるだろうか。初学者は指導医の脳内にある戦略を知ることなく、発せられた言葉のみを受け取る。専攻医になれば責任の範囲が急に広がり、診療における全ての説明を「見よう見まね」で不安を抱えながら実施する。指導医になれば、伝えたいことは沢山あっても言葉でうまく説明できず、「リスクは説明しろ。わかりやすい言葉を使え。あとは背中をみて学べ。」としか言いようがない。結果的に、個人のセンスに頼った非効率的な説明が実施され、時には高圧的や過度に侵襲的な説明が行われてしまうことすらある。

筆者も臨床研修医・専攻医時代に病状説明で大いに苦労した。たくさんの失敗もした。臨床現場でどのように病状説明をすればよいか。そして後輩たちにどのように説明の戦略を伝えればよいか。日々悩み続けた。総合診療/家庭医療の専門研修過程、そしてビジネススクールでの学びを生かし、病状説明の体系を構造化した。本講演では、そのエッセンスをお伝えしたい。患者をはじめとした説明相手への配慮にあふれた「あたたかい病状説明」を、参加者の皆さんが再現性を持って実践できるお手伝いができれば幸いである。

---

### 【略歴】

2012年3月 自治医科大学卒業(学長賞)  
2012年4月～ 奈良県内で臨床研修/へき地勤務  
2016年4月 南奈良総合医療センター  
2016年9月 名古屋商科大学ビジネススクール入学  
2019年4月 野迫川村国民健康保険診療所 所長  
2020年9月 名古屋商科大学ビジネススクール卒業  
2021年4月～ 南奈良総合医療センターで継続勤務

家庭医療専門医・指導医、日本内科学会指導医  
総合診療特任指導医、病院総合診療特任指導医  
Executive MBA(国際認証)

### 著書・執筆

『病状説明 ケースで学ぶハートとスキル』2020. (医学書院)  
『医療文章 書きカタログ』2020～2022.「総合診療」にて連載 (医学書院) 他